

第1回会議 委員意見の整理

1. 第1回会議の委員意見整理(振り返り)
2. 嘉数委員意見の報告

特命推進課
令和3年11月2日

第1回会議の委員意見整理（振り返り）

第1回会議の振り返り

事務局から本会議のスケジュール、「琉球文化ルネサンス」に関する基本的な考え方（イメージ像）を説明した後、琉球文化における「多様性」、「国際性」、「新たな価値の創出」、「普及・啓発」の視点から意見を出していただいた。

【委員の意見内容（主なもの）】

※「琉球文化の総合的な捉え方」、「琉球文化の本質的価値」、「琉球文化ルネサンスの考え方」、「琉球文化の多様性」、「国際性」、「新たな価値の創出」、「普及・啓発」の項目に分けて記載。

琉球文化の総合的な捉え方

<主な意見>

琉球文化は、重層的に捉えることで特徴づけができるという意見があった。また、「王朝性」を絶対化しすぎず、多面的に捉えることが大事であるという意見もあった。

- ◆【歴史】（島々の文化や自然を前提とした基層／その上に被さる王朝性）
- ◆【伝統芸能】（祈りやまつりを核とする民俗芸能／冊封関係で育まれた琉球古典芸能／島々の歌と王朝の舞踊がミックスされた大衆芸能）

第1回会議の委員意見整理（振り返り）

琉球文化の本質的価値

<主な意見>

琉球文化の本質的な価値とは、自然に対する畏怖や祈りが核となっているとの意見があった。また一方で、県内と県外等、文化の担い手や立場の違いに応じて、各自が感じる本質的な価値が異なるのでは、という意見もみられた。

さらに、本質的な価値を守るためには、様々な関係性を持つ文化の構造を認識すること、また、時代とともに変容する文化に対し、守るべき「核」の部分をどうしていくべきかの議論が必要であることが課題として示された。

- ◆ 自然に対する畏怖や祈りが島々の文化を形成した本質的な部分である。
- ◆ 多様な文化を受け入れ、自分たちのものにしていく力強さについても価値である。
- ◆ 「王朝性」と「島々の文化」が関係しあう構造を認知させることが重要。
- ◆ 伝統文化は時代によって変化するが、守るべきもの、忘れてはならないものをどうしていくか議論すべき。
- ◆ 県内と県外で、琉球文化の本質への理解は違う。一方で、文化の担い手の立場・状況によって、価値のとらえ方が違ってくることにも理解が必要。

第1回会議の委員意見整理（振り返り）

琉球文化ルネサンスの考え方

<主な意見>

琉球文化ルネサンスはいつの時代を指すのかという意見があった。

また、沖縄の自然・歴史・文化がどのような普遍性を持ち、人々の生活を支えていくのかという点や、沖縄の歴史・文化を具体的にどのように県民に広め、体制を築き、本当に実りあるものにするかについて議論が必要という意見が出された。

- ◆ 過去の出来事を振り返ると、琉球文化ルネサンスはすでに始まっていると考えられる。それを踏まえ、新しいルネサンスをどのようにつくるのかの議論が必要。
- ◆ 自然や生物の多様性を豊かに持つ沖縄の強さ、沖縄の価値をうまく表現し、伝えていくことは大事である。
- ◆ これからの琉球文化ルネサンスでは、新しい何かをつくることがいいことなのか、守るべき「核」となるものは何なのか、などの視点からも多面的に議論すべき。
- ◆ 琉球文化ルネサンスについて議論する際には、「王朝性」を絶対化しすぎないということが大事である。

第1回会議の委員意見整理（振り返り）

琉球文化の「多様性」

<主な意見>

琉球文化の多様性は、島々が持つ独自の自然や文化に表われていること、また、海外の異文化を取り入れるチャンプルー文化にも、その多様性が示されている点などの意見があった。

さらに、多様性を保持していく方法、その個性を総合力としてどう力に変えていくかの議論が必要であることの課題が出された。

- ◆ 琉球文化の多様性は、自然や、各島々が持つ独自の文化に表れている。
- ◆ 別の文化を取り入れる「チャンプルー文化」にも多様性が表れており、それが沖縄の価値に繋がっている。
- ◆ 琉球文化が本来持っていた多様性を、いかにして保持していくのが課題。
- ◆ 個性(違い)を尊重しつつ、これらを総合力としてどう力に変えていくかという議論が必要。

第1回会議の委員意見整理（振り返り）

琉球文化の「国際性」

<主な意見>

琉球文化そのものが国際的であること、また、沖縄の芸能には、他国にも共通する普遍的な価値を有しているとの意見があった。

一方、国際的な取組を行う上では、相手国の事情に合わせるということが重要であるとの意見もあった。

- ◆ 琉球文化そのものが国際的なものである。
- ◆ 琉球文化は、南西諸島の人々が外との交流により新しい文化をつくり出している。
- ◆ 沖縄の芸能は、どの国でも共通する普遍的価値を内包している。
- ◆ 国際的な取組をするうえでは、相手の国の事情に合わせて展開していく必要がある。

第1回会議の委員意見整理（振り返り）

琉球文化の「新たな価値の創出」

<主な意見>

新たな価値の創出においては、芸能では創作組踊や創作エイサーの展開、工芸分野では、職人とビジネス分野との連携に関する取組等、すでに取組がはじまっているとの意見があった。

また、伝統を受け継ぎながら時代に見合った新しい作品を生み出すことは、産業化の議論にも繋がるとの意見があった。

- ◆ 工芸（紅型）の分野においては、通常職人ではできない企業交渉や知財を守っていくためのサポート、スケジュール管理の部分をビジネスの分野が補っていくなど、工芸として新しいかたち（仕組み）をつくっている。
- ◆ 伝統を受け継ぎ、新しい時代に見合ったものを生み出すことは、工芸に携わる人たちがしっかり生活していけるだけの収入が得られる産業にする問題と関わっている。

第1回会議の委員意見整理（振り返り）

琉球文化の「普及・啓発」

<主な意見>

沖縄の歴史や文化を県民に広めるため、教育現場など関係機関との連携や専門人材の確保、体制(仕組み)づくりが大きな課題であるという意見が出された。

また、総合的・横断的な情報発信のあり方に関する議論の必要性についても意見が出された。

- ◆ 沖縄の歴史文化について、具体的にどう県民に広め、どういう体制を築き、本当に実のあるものにしていくのかというのが課題。特に教育という面では非常に重要。
- ◆ 県は教育現場などと連携し、沖縄の歴史・文化を普及する事業を興す必要がある。
- ◆ 普及・啓発の事業を行うにあたっては、専門人材をどう確保するかという課題がある。
- ◆ 教育については、新しいツールを活用することで本物を伝えることができる。
- ◆ 琉球文化について、総合的・横断的な情報発信が必要。

嘉数委員意見の報告

第1回会議後、嘉数委員に議事内容を説明し、意見を伺った。

【本質的な価値について】

- 新作組踊では伝統芸能の核を大切にしながら新しい創作活動を行っているが、何が核なのかと問われるとそれを答えるのは難しく、県内でも定義されていない。
- 新作組踊を創作するときには、伝統芸能を作り出してきた先人に対する畏敬の念をもつことが大切。そのような認識をもつ体制を整えることで、組踊の核から外れてしまったとしても修正が可能になるのではないか。

【情報発信について】

- 現代の観客に合わせた鑑賞の工夫は実施すべき点があれば推進していく必要がある。

【普及・啓発について】

- 国立劇場おきなわでは、小・中学生へワークショップ形式の派遣事業を実施している。
- 作品をみてもらうだけでなく、ワークショップとして鑑賞ポイントを紹介し、組踊そのものの楽しみ方を理解してもらうことが大切である。
- 県外公演の場合は元々芸能に興味があるかどうかなど観客の層にあわせて、事前ワークショップの内容を変更している。

【人材育成について】

- 今後は実演家とともに、舞台のマネジメントやプロデュースを行う人材を育てていく必要がある。